

# 文化財庭園保存技術者協議会 会報

2006.12 第9号

編集・発行：文化財庭園保存技術者協議会（代表：玉根徳四郎）

〒600-8361 京都市下京区大宮通花屋町上ル NPO みどりのまちづくり研究所内

TEL. 075-341-2600 FAX. 075-361-0961

評議会連絡所：〒606-8371 京都市左京区北白川瓜生山 2-116 京都造形芸術大学日本庭園研究センター

TEL. 075-791-9018 FAX. 075-791-9342

東京 連絡所：〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-6-3 福田ビル 3F 文化財庭園保存技術研究センター

TEL. 03-3202-5233 FAX. 03-3202-5394

## 平成 18 年度第 2 回研修会のご案内

平成 18 年度第 2 回研修会を下記の通り和歌山県内にて開催いたします。初日の教養研修は 3 名の講師をお招きし具体的な事例を交えて講演頂きます。名勝養翠園、名勝和歌山城西之丸庭園（紅葉溪庭園）、名勝根来寺庭園、名勝粉河寺庭園の 4 ヶ所にて開催いたします実地技能研修では、実際に庭園修復整備に携わられた講師に現地にて解説を頂きます。

活発な意見交換も展開されます。ふるってご参加下さいますようご案内いたします。

### ●平成 19 年 1 月 20 日(土) 会場:名勝養翠園(和歌山市西浜 1164)

12:45 研修会受付開始(養翠園入口にて)

13:00 開会・来賓挨拶

13:10 教養研修(公開講演)

基調講演：平澤毅氏(文化庁文化財部記念物課文化財調査官)

「文化財庭園の状況について」

①講演：渡辺今日子氏(和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課技師)

「和歌山県の文化財庭園について」

②講演：藤井清氏(養翠園園主)

「名勝養翠園庭園について」

③講演：龍居竹之介氏(龍居庭園研究所所長・本協議会評議員)

「文化財庭園の保存修理事業について」

15:20 実地技能研修 養翠園庭園にて

現地指導：龍居竹之介氏

松原法昭氏(有限会社パーク総合デザイン代表取締役)

16:30 閉会

### ●平成 19 年 1 月 21 日(日)会場：和歌山城西之丸庭園(紅葉溪庭園)(和歌山市一番丁) 名勝根来寺庭園(和歌山県岩出市根来 2286) 名勝粉河寺庭園(和歌山県紀の川市粉河)

8:45 受付開始和歌山城西之丸庭園(紅葉溪庭園)入口にて

9:00 解説：龍居竹之介氏・松原法昭氏

「名勝和歌山城西之丸庭園について」

10:40 根来寺へ移動・昼食

12:30 解説：龍居竹之介氏・本協議会準会員福永邦昭氏・準会員曾我部聖二氏

「名勝根来寺庭園の修復整備について」

14:00 粉河寺へ移動

14:30 解説：龍居竹之介氏・環境事業計画研究所所長吉村龍二氏

「名勝粉河寺庭園の修復整備について」

15:30 閉会(バスにて JR 和歌山駅まで移動)

16:30 解散

※ 20 日(土)の教養研修は一般公開いたしますので、どなたでもご参加頂けます。ただし、事前のお申し込みが必要になりますので、事務局(TEL075-341-2600)までお申し込み下さい。実地技能研修会に参加ご希望の方は、事務局までお問い合わせ下さい。

## 平成 18 年度総会 第 1 回研修会開催される

平成 18 年 7 月 7 日（金）京都御苑閑院宮邸跡において環境省、京都府、京都市より来賓を迎え、構成員 111 名うち出席者 98 名（うち委任状出席者 51 名）で総会を開催しました。

まず事務局長山田昌次氏より開会の宣言があり、続いて代表玉根徳四郎氏より挨拶がありました。そのあと来賓の環境省京都御苑管理事務所長吉井雅彦氏、京都府文化財保護課専門員石田裕二氏よりご挨拶いただきました。



教養研修の様子

議事は総会資料に基づき、第 1 号議事平成 17 年度事業報告、第 2 号議事平成 17 年度決算報告、第 3 号議事平成 17 年度監査報告、第 4 号議事平成 18 年度事業計画、第 5 号議事平成 18 年度予算について報告がありました。

総会に引き続き、同会場で教養研修が行なわれました。講義 1 では、財団法人京都市埋蔵文化財研究所調査課長鈴木久男氏より、「閑院宮邸庭園跡の調査」について講演いただきました。発掘状況から明らかとなった園地や中島の構造、洲浜の状況等庭園の特徴について説明があり、作庭当時から現在までに庭園がどのように変遷してきたのかをスライドを使い解説いただきました。講義 2 は、庭園の修復整備事業を指導された評議員尼崎博正氏より「閑院宮邸園地の成立過程- 絵図と石材からの検証序説-」の演題でご講演いただきました。江戸期、明治

期に描かれた絵図の変化と、庭園に存在する石材の特徴による時代考証の結果について説明がありました。絵図による検証では、園地が江戸期、明治維新後と各時代でどのような役割を果たし改修されてきたのか、また石材からの検証では、庭石の石質、築地や石垣の石質から庭園の特徴を解説いただきました。講義 3 は、庭園の修復整備事業を設計管理された株式会社環境事業計画研究所長吉村龍二氏より、「閑院宮邸跡庭園修復整備の設計」について講演いただきました。はじめに、建築と庭園の修復復元工事の状況を収めた「蘇の閑院宮邸跡- 京都御苑閑院宮邸跡保存活用工事-」のビデオを鑑賞し、そのあと平成 12 年度より行なわれてきた修復整備事業の経過を説明いただきました。発掘調査より明らかとなった護岸構造の状況を断面図で示し、これにより進められた旧来工法の施工の再現についてスライドを使い解説いただきました。

その後庭園に移動し、尼崎博正氏、吉村龍二氏、施工にあられた副代表上原修氏の指導で、実地技能研修が行なわれました。教養研修をうけ、実際に庭園の石材に触れ、旧来工法により修復された護岸の仕上がり状況を視察しました。

同日 18 時 30 分より、平安会館にて情報交換会が行なわれ、新規入会者の紹介をはじめ、北は北海道から南は沖縄県と日本全国から参加いただいた構成員及び関係者の交流がはかられました。

8 日（土）午前、株式会社西村石灯呂店にて正会員西村金造氏と準会員西村大造氏の指導のもと、実地技能研修が行なわれました。工房にて石造品についての解説ビデオを鑑賞した後、店内に展示されている様々な時代、型式の石灯籠について解説いただきました。そのあと西村大造氏から、石灯籠を作成していく過程での初期段階である原石に墨付けし 3 種類のノミを使いほぞ穴をあけ、矢を入れて切断する加工を



実地技能研修の様子

実演していただきました。また希望する会員の方には、石の表面のノミ仕上げ加工を体験していただきました。午後は、名勝清風荘庭園に会場を移し評議員尼崎博正氏、龍居竹之介氏監修のもと、参加正会員の指導で実地技能研修を行ないました。はじめに京都大学資産グループ浜崎氏より、清風荘の概要について解説いただき、続いて尼崎評議員より近年の整備状況と今回の研修方針について説明がありました。研修範囲は敷地西側の玄関回りを対象とし、玉根代表が全体の技術指導にあたり、4 班に分かれ各班 2 名の正会員を中心にどの樹木をどのように剪定し、庭園空間を作り上げていくのか討議しながらすすめられました。

9 日（日）、8 日午後に引き続き実地技能研修が行なわれました。研修方針、範囲が示され、京都独特の蒸し暑い気候のなか参加者が技術の研鑽に努められました。



実地技能研修の様子

### 庭園学講座 13 開催される

本協議会では、京都造形芸術大学日本庭園研究センターが主催する庭園学講座を特別教養研修と位置づけしており、今回は 17 名の会員が参加しました

平成 18 年 9 月 1 日（金）から 3 日（日）の 3 日間「名勝と文化的景観- 近江の庭園と風景-」をテーマに庭園学講座 13 が開催されました。

1 日目は、近江八幡市で午前中は本協議会評議員でもある日本庭園研究センター所長尼崎博正氏より「近江の庭園と風景」、文化庁記念物課文化財調査官平澤毅氏より「名勝と文化的景観」、本協議会評議員でもあり日本庭園研究センター副所長安原啓示氏より「世界遺産と文化的景観」について講演がありました。午後は近江八幡市資料館、旧西川家住宅、八幡堀水景での現地研修が行なわれました。

2 日目は、彦根市で午前、本協議会事務局長補佐でもあり京都造形芸術大学教授仲隆裕氏より「玄宮楽々園- 文化財庭園保存管理への取り組み-」、本協議会評議員でもあり日本庭園研究センター副所長中村一氏より「自然美と名勝」、彦根市教育委員会文化財課谷口徹氏より「彦根藩と大名庭園」について講演がありました。午後は名勝玄宮楽々園、名勝旧彦根藩松原下屋敷（お浜御殿）庭園での現地研修が行なわれました。

3 日目は、長浜市で午前、尼崎博正氏より「慶雲館庭園と植治」、長浜市教育委員会歴史文化課森口訓男氏より「慶雲館庭園発掘調査の成果について」、社団法人長浜観光協会事務所次長清水義康氏より「歴史文化を活かした「博物館都市長浜」について講演がありました。そのあと慶雲館建物と庭園の見学が行なわれました。午後は北国街道安藤家、成田美術館、名勝大通寺含山軒及び蘭亭庭園での現地研修が行なわれました。

### 平成 18 年度技能技術錬磨事業及び第 3 回文化財庭園フォーラム開催される

平成 18 年 9 月 29 日（金）～10 月 1 日（日）の 3 日間秋田県秋田市において出席者 21 名にて技能技術錬磨事業及び文化財庭園フォーラムを開催しました。フォーラムは秋田市教育委員会との共催で開催し、文化庁記念物課文化財調査官平澤毅氏、龍居竹之介氏、尼崎博正氏、丸山宏氏監修のもと、代表玉根徳四郎氏を筆頭に見学会・シンポジウム共に一般公開形式で行いました。



フォーラム見学会の様子

29 日及び 30 日は、秋田県指定史跡如斯亭を研修会場に、技能技術錬磨事業を実施しました。剪定技術により、どのように庭園の姿を甦生させていくのか、行政関係者や評議員、会員諸氏で討議した上で、玉根代表が全体の技術指導にあたり、4 班に分かれ各班正会員を中心に管理実技がすすめられました。研修前の庭園は、骨格となる滝石組みや景石の存在、築山からなる一連の地形が繁茂した中低木の繁茂により把握できず、また背景にある高木の繁茂が庭園空間から逸脱している状況でした。そこでまず、地表や園路、滝石組みを覆う中低木、また草に覆われた流れの部分の修復剪定が行なわれました。その結果、石組みの存在感が引き立ち、築山の稜線が明らかとなり、その連続性からみられる大らかな美が蘇りました。さらに背景にある樹木（アカマツ等）の剪定が行なわれることで、周辺の山並が取り込まれ、スカイラインを

活かした奥行きをもつ庭園空間が作られました。そのほか庭園の中心に存在するマツの支柱の付け替えやナナコ垣が製作されました。限られた短い時間の中で、直截かつ的確な判断で庭園空間が構築され、文化財庭園としての価値が一層高められました。

30 日午後は文化財庭園フォーラムの管理技術研修会として作業状況が一般公開されました。地域の方々理解を深めていただくために、事務局から如斯亭の歴史の変遷や庭園の特徴、研修内容について解説しました。

翌日は秋田市文化会館にて文化財庭園フォーラムのシンポジウムとして開催しました。第 1 部講演会は「文化財庭園の世界」をテーマに 3 つの講演が行なわれました。講演 1 は、平澤毅氏より「日本の名勝について」、講演 2 は、東北芸術工科大学教授田中哲雄氏より「秋田の文化財庭園について」、講演 3 は、龍居庭園研究所龍居竹之介氏より、「文化財庭園保存管理技術について」講演いただきました。

第 2 部パネルディスカッションは、「文化財庭園を維持する」をテーマにすすめられました。コーディネーターに文化財指定庭園保護協議会会長樋渡達也氏、パネラーに秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室学芸主事田中博光氏、大仙市教育委員会文化財保護課副主幹山崎文幸氏、秋田県指定文化財如斯亭主丸野内胡桃氏、評議員尼崎博正氏、評議員丸山宏氏をむかえ議論が交わされました。

はじめに 5 名のパネラーの方々より以下の報告がありました。田中氏より「秋田の宝おらほの宝事業」の概要と秋田の庭園の魅力を市民に伝え広げ活用していくのか、山崎氏より「池田氏庭園」について田園地帯の中心に六角形の敷地で存在する庭園の特徴や、維持管理の取り組み、また池田家の歴史と精

神伝承の重要性が解説されました。丸野内氏より「如斯亭の今と昔」として古絵図や古平面図、古写真からみられる歴史的変遷、維持管理に関わる問題点、さらに文化財を所有する上での苦難や今後の抱負を述べられました。丸山宏氏より「発掘庭園」について、実際に携わられている全国の文化財庭園の調査や整備事業を例にあげ、これらの庭園に本協議会が連繋し取り組んでいくことが必要であると述べられました。尼崎氏より「庭園の保護・庭園の美その保護のために」、今回の研修の成果もふまえ、美の構造の見極めを大切に本協議会として技術に加え美意識を共有していきたい。またこれらを次の時代にどのように継承していくのか考究し具体化させていく必要があると述べられました。

続いてパネルディスカッションでは、文化財庭園所有者、行政、学識経験者（庭技協会員）と各々の立場、視点で「文化財庭園」を多角的にとらえた議論が交わされました。



パネルディスカッションの様子

今回のフォーラムで秋田の庭園文化を考える上でドアが開かれた。文化財庭園は生きている文化財であるために時間との争いがあり、現時点で問題が克服されたとしても、時々刻々、あらたな問題が生じていくものだ。池田氏庭園では、文化的景観の保存に課題を抱えており、庭園と一体となった山村景観の保全や、周辺の農村景観の保存が大切である。この景観保全には、文化行政の範囲にとどまらず景観行政や農業政策、都市計画と一体となった取り組みが必要である。最後に、庭園は土に密着したものであり、人と文化の重なりであり。大地からのメッセージ、気候風土などトータルなものとして庭は存在する。風土に根ざした庭園とは、その土地の人たちが育て、次の世代の人に伝えていくという強い思いと意識がなければ継承されない。庭園の素晴らしさは、風土

に根ざしているから普遍的な感動として伝わるもの。地元の方々に育てていって戴きたい。保存と活用、環境というのは永遠の課題であるが、人は、初代の人に負けない情熱を持つことが大切である。と締め括られました。

### 文化庁主催シンポジウム

#### 文化財保存技術 2006 伝統的な文化財を支える「伝統の名匠」開催される

平成 18 年 11 月 4 日（土）5（日）宮城県仙台市せんだいメディアテークにおいて開催されました。選定保存技術保存団体 22 団体が一同に会し、各団体が後継者育成の取り組みや、保存伝承活動についての報告がありました。本協議会では事務局 2 名が出席し実技技能研修や、技能技術錬磨等の研修会の状況をパネル展示し、活動報告を行ないました。日頃の活動がより多くの方々にご理解いただけたのではないかと思います。

### 新規加入会員の紹介

平成18年11月末日で技能会員は89名となりました。ここに新規に入会された方をご紹介します。

#### ●技能会員

会員種別	氏名	所属	所在
研修会員	下西 耕太郎	(財)国民公園協会 京都御苑	京都府
審査中	内田 由紀子	(株)彦島造園	山口県
審査中	外丸 実	外丸造園	栃木県

編集後記:▼本協議会の知名度、認知度が上昇し、行政担当者、各団体、技術者等、関係者からの問い合わせが大変増えております。関係者各位には多大なるご助力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、本協議会の活動に関心がございます方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介をお願いいたします。ますます充実した研修内容にして参りたいと思いますので、研修会場・研修内容等でご意見をお持ちの方は、事務局までご一報下さいませ。▼